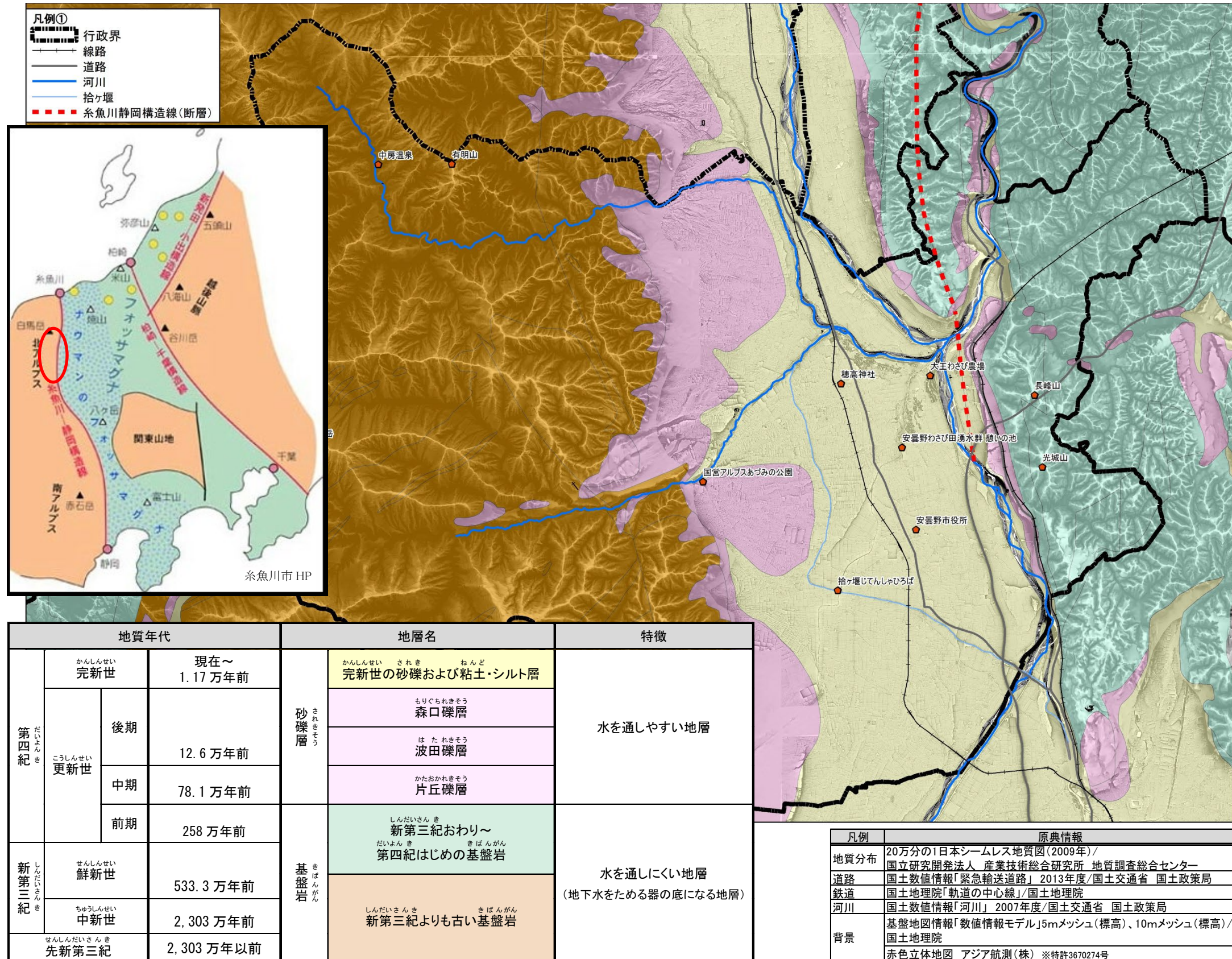


図 2：安曇野市の地質 (ここでは、みなさんの住む安曇野市の地下の地質について学びましょう。安曇野市の成り立ちを長い時間の中で説明します。)



- ・約 2000 万年前に日本列島がつくられたとき、東日本と西日本を境目として大きな溝ができました。溝ができたときそこは海でしたが、長い年月をかけて岩石等がたまって陸がつながり、現在のよう日本形になりました。この大きな溝だった場所のことを「フォッサマグナ」といいます。
- ・フォッサマグナの西縁にあたる糸魚川-静岡構造線が安曇野市の東部、国道 19 号付近の地下をほぼ南北に走っています。
- ・安曇野市の地質は、新第三紀おわり～第四紀はじめの「基盤岩」と、第四紀の「砂礫層」に大きく分けられます。
- ・山地は基盤岩から成り、扇状地と氾濫原は砂礫層から成ります。
- ・安曇野市の砂礫層は、堆積した年代によって礫の形が異なります。
- ・古い時代の礫は、角が少しとがっています。新しい時代の礫は、丸みをおびています。
- ・川の流れにより山から運ばれた砂や礫が、斜面がゆるやかになる山裾で次々とたまり、扇状地を作ります。
- ・扇状地の地質は砂礫で水を通しやすく、一気に河川水は地中へと、しみ込みます。
- ・山を流れた河川の水量が、山裾付近で激減するのはそのためです。

「この地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の基盤地図情報を使用した。(承認番号 令元情使、第 194 号)」

△注意！必読のこと！！ 本資料中の説明は、あくまでも読図の一例であって、確定的な分析ではありません。実際の利活用にあたっては、地元の地形・地質や地下水等に詳しい専門家の助言や監修を受けるようにして下さい。